

聖霊は一人ひとりに
賜物を与えてくださる

使徒言行録 2 : 1 - 4

コリントの信徒への手紙 I 12 : 4 - 13



司祭 ヨハネ 井田 泉

聖霊降臨日

2025 年 6 月 8 日

聖光教会にて

今日は聖霊降臨日です。この日、主イエスの約束を信じて集まっていた祈りの群れに聖霊が注がれて、教会が誕生しました。それを引き継いでいるのが、世界の教会であり、またわたしたちのこの教会です。

今日は使徒書から聖霊の賜物のことをお話ししたいのですが、この前にまず、この日、何が起こったかを先ほど読まれた使徒言行録から確かめておきましょう。

「五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。」

使徒言行録 2:1-4

ここで人々が経験したことは何でしょうか。二つの言葉に注目しましょう。まず「激しい風」です。これは神からの風、神の息吹、イエスの命の息です。神の息吹が祈っている人々の群れに吹き込まれ、その息吹は体の隅々にまで浸透したので、人々は深く息ができるようになった。恐れからも葛藤からも解放されて、平安に満たされ、力がみなぎった。これが一つです。

もう一つは「炎のような舌」です。これは神の火、燃える神の愛の火です。神の愛の火が祈りの群れ全体を包むとともに、「一人一人の上にとどまった」。神の燃える愛の火が一人一人に宿ったのです。神の愛の火を受ければ、心は熱く燃える。喜びが溢れてくる。この喜びを伝えずにはおれなくなる。神さまと隣人のために何か良いことをしたくなる。

聖霊は神の息吹であり、神の愛の火です。このように「激しい風」、神の命の息吹と、「炎のような舌」、燃える神の愛の火を受けて、教会は誕生しました。

聖霊の風は自由に吹きます。一方は、ローマ帝国内を西へ西へと吹き、ギリシャの大都会コリントに至りました。そこに教会が誕生しました。あの聖霊降臨から約 20 年後のことです。コリント教会の創立と形成のために働いたのはパウロ、そして協力者にはアキラとプリスキラ夫妻、またアポロ、シラスとテモテがいました。パウロはコリントに1年6か月滞在して、人々に神の言葉を伝えました（使徒言行録 18:11）。パウロがコリントを去った後も教会は発展を遂げ、数年後には少なくとも100名を超える会衆になったようです。

ところがそれから数年して、容易ならぬ事態がコリント教会に起こっていることがパウロに伝わってきました。何かと言うと、教会内の争い、対立です。「自分はパウロにつく」とか、

「ペテロにつく」とか、「いや、アポロだ」、さらには「キリスト」だとか、教会内に分裂抗争が絶えない、というのです。また信徒の中には多様な人がいます。ユダヤ人、ギリシャ人、男女、また一般庶民のほかにローマ帝国に仕える地位のある人も加わってきます。そうした中で、金持ちの有力者たちが貧しい人たちを軽んじて辱めている、という話も聞こえてきました。熱心に礼拝が行われ、活動が行われてはいるようですが、教会の本質が失われているのではないか。

パウロは、非常な心配と憤りを感じました。せっかく自分たちが日夜心を砕いてイエス・キリストを宣べ伝え、教会の信仰的基礎を築いたはずなのに、それが台無しにされている。いつのまにかイエス・キリストが見失われ、人間の傲慢が幅を利かせている。弱い立場の人たちは抑えつけられて辛抱している。パウロはこれを放置できませんでした。しかしすぐにそこへ行くわけにはいかないので、長文の手紙を書きました。これが、今日使徒書として読まれたコリントの信徒への手紙Ⅰです。

今日の箇所、12 章 4～13 節に**聖霊**のことが書かれていました。「**霊**」という言葉が、今日の箇所だけで 11 回も繰り返されます。なぜかと言えば、教会を本来のあり方に立ち戻らせるためには、人間の働きではなく、聖霊、神の霊の働きを知らなくてはならないからです。

「賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。務めにはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ主です。働きにはいろいろありますが、すべての場合にすべてのことをなさるのは同じ神です。一人一人に“霊”の働きが現れるのは、全体の益となるためです。」

12:4-7

コリント教会の人たちは忘れている。それぞれに与えられている力、働き、良きものは、神が与えてくださったものです。聖霊が恵みの賜物を一人一人に与えてくださった。あの最初の祈りの群れに注がれた聖霊は、炎のように燃える舌となって一人一人に宿った。そうして教会の一人一人に神の愛の火が、聖霊の恵みがそれぞれに与えられているのです。違うものが与えられているけれども、同じ聖霊からいただいたものです。

「賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。」

「一人一人に“霊”の働きが現れるのは、全体の益となるためです。」

こうしてパウロは、コリント教会の礼拝や活動を思い浮かべつつ、さまざまな働きを挙げていきます。

「ある人には“霊”によって知恵の言葉、ある人には同じ“霊”によって知識の言葉が与えられ、ある人にはその同じ“霊”によって信仰、ある人にはこの唯一の“霊”によって

病気をいやす力、……」12:8-

「ある人には“霊”によって」「ある人には“霊”によって」と何度も繰り返されています。聖霊が賜物を与えてくださった。このことを知れば、人は謙遜にされます。自分が、自分がと、自分の力を誇り、自分の考えを押し通そうとしていたことに気づかされます。それによって人を抑えつけたり、傷つけたりしていたかもしれません。また反対に、自分には何もすぐれたところなどないと諦めたり、無力感にとらわれたりしている人がいたとすれば、いや、自分にも聖霊が何か大切なものを与えてくださるのだと気づくようになります。良い意味で自信が持てるようになります。

わたしたちはどうでしょうか。わたしに与えられている聖霊の賜物は何か。恵みの賜物は何か。それを発見したい。目立つものもあれば目立たないものもあります。語ることも賜物であり、静かに聞くことも、祈ることも賜物です。恵みの賜物を発見し、感謝し、それを神さまと人のため、教会のために生かして用いたい。教会はこうして深いところから再建されていきます。

しばらく前に「聖霊を求める祈り」が与えられました。これをご一緒に祈りましょう。

聖霊よ、おいでください。

聖霊よ、あなたは風、神の息吹。

わたしたちに命の息吹を与えてください。

聖霊よ、あなたは火、燃える炎。

わたしたちの心を清め、愛によって燃やしてください。

聖霊よ、あなたは光。

わたしたちの闇を照らしてください。

聖霊よ、あなたは命。

わたしたちに命を与えてください。

聖霊よ、あなたは愛。

あなたの愛がわたしたちを慰め、励まし、力づけてください。

聖霊よ、あなたは力。

あなたの力によって悪しき力を滅ぼし、み国を来たらせてください。

聖霊よ、あなたは導き手。

わたしたちを教えて、主イエス・キリストをはっきりと知り、確信させてください。

聖霊よ、あなたは弁護者。

わたしたちを責める者から守ってください。

聖霊よ、あなたは執^とり成^なし主、

わたしたちのために祈ってください。

聖霊よ、おいでください。

わたしたちに臨んでください。わたしたちに満ちてください。わたしたちを新しくしてください。

聖霊よ、あなたはわたしたちのうちに宿り、

わたしたちとともに、わたしたちをとおして働いてくださいます。アーメン